

事業を実施する前・実施した後に、以下のような配慮を行ったか確認しましょう！

(各事業の特徴に応じて配慮すべき項目は異なります。)

- ① **企画・立案段階で男女の意見を反映し、男女それぞれの視点を配慮して事業を実施しましょう。**
 - ◎ 男女の視点を考慮することで、男女でしか気が付かない視点を考慮することができます。事業の対象者が男性もしくは女性の場合でも、双方の意見を取り入れるように努めましょう。
- ② **利用・参加・対象者を男女別に固定せず、また双方が気兼ねなく利用・参加できるように努めましょう。**
 - ◎ 対象者を固定する場合は、必要性を再検討してみましょう。ただし、格差を是正するためにどちらかを優遇することは可能です。また、固定しない場合でも男女が参加しやすいように工夫しましょう。
- ③ **広報やホームページ等の文書などの表現は男女共同参画に配慮する（男性・女性に偏った表現などを使用しない）よう努めましょう。**
 - ◎ 市で周知を行う際は、男性だから、女性だからといった表現は使用しないようにしましょう。
- ④ **誰もが利用・参加しやすいよう、日時、場所を設定し、利用・参加の促進に努めましょう。**
 - ◎ 市で日時や場所を設定する事業の場合は、利用・参加者の属性を考えて設定することでより多くの利用・参加が望めます。
- ⑤ **妊産婦や子ども連れ、高齢者や障がい者等が利用・参加しやすい環境づくり、会場設定に努めましょう。**
 - ◎ 利用・参加を困難とする市民の参加が想定される場合は、交通の便や点字等の設備を考慮した会場を設定し、準備(広い通路の確保、障害物の撤去等)を行うように努めましょう。
- ⑥ **保育のサポート等の配慮を実施するように努めましょう。**
 - ◎ 子ども連れの利用・参加者が想定される場合は、保育のサポート等を行い、子ども連れでも気軽に利用・参加できるように努めましょう！保育予算を措置していない課は地域づくり課まで。
- ⑦ **利用・参加・対象者に対してアンケートや意見交換会等を行い、利用・参加・対象者の意見を反映させるように努めましょう。**
 - ◎ 利用・参加・対象者の意見等を反映させ、より実用的、効果的に事業を展開させるように努めましょう。
- ⑧ **利用・参加・対象者の男女別、年齢別人数を把握し、利用・参加・対象者を想定し対応策を検討できるように努めましょう。**
 - ◎ 利用・参加・対象者の傾向を把握（男性が多い、50代が多い、子育て世代が参加している等）することで、次回に向けた対策（女性を増やすためには、若い世代を増やすためには、次回は保育サポートを実施した方がよいのではないかな等）を講じるように努めましょう。